

行政視察報告

視察日時	令和6年10月8日（火） 13：30～
視察場所	香川県高松市
視察項目	地域公共交通について
視 察 者	常任委員会委員8名 同行当局職員1名 事務局職員1名
視察概要	高松市は、周辺の6つの町と統合したこともあり、市域が離島を含む臨海部から山間部までに亘るため、同じ市内でも地域によって公共交通の事情が異なっている。また、人口減少等により公共交通の利用者が減少することが予想されたため、平成25年に「高松市公共交通利用促進条例」を制定し、「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指し、鉄道と平行して走るバス区間の見直しや、バス路線の空白地域及び交通結節拠点へのアクセス性の確保、都心中心部の回遊性の向上などの公共交通ネットワークの再構築に取り組んでいる。 具体的には、地元の鉄道業者である高松琴平電気鉄道が運用するICカード（IruCa）を活用した「高齢者に対する公共交通利用支援」や「鉄道とバスの乗継割引拡大事業」や伏石駅のグランドオープンに合わせた駅周辺の整備や交通結節点としての機能強化のためにバス路線の再編などを行っている。また、郊外部の交通結節点と郊外拠点を繋ぐフィーダーバスとして運行していたバス路線に代わり、民間タクシーによる時間・区域を限定したデマンド型交通「バタクス」を運行している。
本市に生かせる視点	高松市では、鉄道が市街地を縦断しており、通勤や通学など市民の生活の足となっている。本市では、鉄道が市街地を取り囲むように走っていることや自家用車が中心の生活のため環境は違うが、市外からの学生が多く鉄道を利用していることを考えると、鉄道とバスの乗継に対する支援強化について検討する必要がある。また、高松市では、郊外部の駅周辺にパーク＆ライド駐車場が整備され、増加傾向にある。本市でも、検討する価値はあると考える。さらに、民間タクシーを活用したデマンド型交通では、昼間の稼働の少ない隙間時間を上手く活用していた。 高松市では、各種施策の実施により、短期的には支出が増えているが、何もしなければ将来的に民間路線や撤退に繋がり、より多くの負担が予想されるため、長期的に支出を抑えるためにも持続的で利便性の高い公共交通ネットワークの再構築への先行投資は必要、という考え方にに基づき、戦略性や計画性を持って施策が進められていた。高松市とは、人口や財政規模も大きく違うが、既存ストックやICカードを活用したハード・ソフト両面からの施策や、再編により生じる運賃や時間的抵抗の低減などのサービス水準の維持をしながら、持続性の高い公共交通に変えていく、需要に合わせた供給の最適化を行う「高松モデル」の考え方は参考になった。